

地域トピックス

◆被害に遭わないために(綾織町)

綾織町老人クラブ連合会(菅田俊吉会長)は会員相互の教養を高める活動として「寿教室」を開催しています。今年度2回目となる2月16日の教室では「地域の安全・防犯」について綾織駐在所の渡邊秀博巡査が講演し、高齢者が狙われやすい振り込め詐欺や訪問販売について、対処の仕方などを学びました。

参加者は「悪質業者の甘い言葉に乗らない、だまされたならすぐに相談する」などの話に、真剣に耳を傾けていました。



渡邊巡査の話に真剣に耳を傾ける参加者

◆寒さを吹き飛ばそう(土淵町)

吹雪乱舞まつり(土淵町地域づくり連絡協議会主催)が1月27・28の両日、地域住民500人が参加して開かれました。この催しは、閉じこもりがちな冬に、雪と親しみながら住民同士の交流を深めようと開催され、今年で8回目。

暖冬の影響で、メインイベントの雪合戦大会が中止となったものの、音語りコンサートや新ローカルヒーロー「まぶりと牙」が飛び入りしたビンゴゲーム大会、住民手作りの屋台村など、参加者は冬のまつりを楽しみました。



住民手作りの10店の屋台が並んだ前夜祭



防災の拠点づくりについて意見交換したパネルディスカッション

◆災害時の役割を再認識

防災フォーラムin遠野が二月十八日、市民センターで開かれました。同フォーラムは、九月に当市を会場に実施される「県総合防災訓練」に先立ち、防災意識の高揚などを目的に開催。市内外の消防団員など約八百人が参加しました。岩手大学の齋藤徳美副学長と陸上自衛隊岩手駐屯地の小林茂司令が基調講演。パネルディスカッションでは、県総合防災室の越野修三防災危機管理監、県警察本部の室山明一災害対策室長、本田敏秋市長を交え、災害に対する心構えや、沿岸部での災害時に当市が果たすべき役割などについて意見を交わしました。



祖父母の役割や孫との接し方を学んだセミナー

◆孫育てを楽しもう

孫を持つおじいちゃん、おばあちゃんを対象とした「孫育てセミナー」が二月八・十五・二十二日の三日間、健康福祉の里で開催されました。子育てを手伝う祖父母の力を引き出そうと県立大学と市が共催したもので、しつけや遊び、離乳食の作り方などを学びました。初回は、奥州市在住の助産師、佐藤ツセ子さんが「祖父母の役割と孫のしつけ」について講演。佐藤さんは、自らの体験や現代の子育てに関するクイズを織り交ぜながら「若い人たちの育児方針を尊重し、負担にならない程度に関わることが大事」などと話していました。

◆スポーツで交流を深める

健康づくり総合プログラム「イベント」心も体もホット！スポーツの集いは二月十二日、市民体育館などを会場に百十四人が参加して行われました。第一部は全員が参加してのエアロビクス。一関市在住のインストラクター藤野恵美さんを講師に、音楽に合わせて元気に体を動かしました。第二部では、ピリヤード、バランスボール、四種目のニュースポーツを体験するコースにそれぞれ分かれて、交流を深めながら楽しみました。及川貞子さん(松崎町)は「初めてやった種目もあり、とても楽しかった」と笑顔で話していました。



カーリングに似た競技の『カロリング』に挑戦する参加者



楽しみながらバランスボールを体験

◆ますますお元気に、100歳

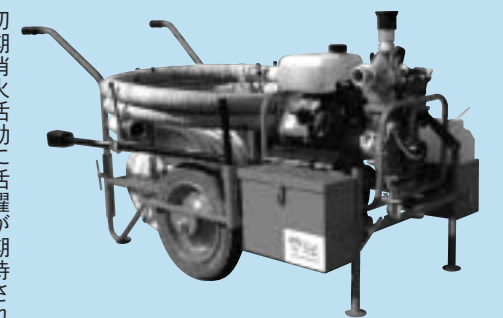
二月四日、百歳の誕生日を迎えた荻野トヨさんに市から記念品が贈られました。入所している特別養護老人ホーム遠野長寿の郷を本田市長が訪問。記念品の黒二ツ引タンスと花束を手渡し、この日を楽しくしてか、前日はよく眠れなかったそうですが、元気な声で「ありがとうございます」と答えています。荻野さんは上郷町生まれ。結婚してすぐに横須賀へ移ったものの、まもなく関東大震災を体験。三年後に帰郷し茶店や下宿屋を営みながら、五人の子どもたちを育ててきました。家族が毎日のように訪ねてくるのを楽しみにしています。



家族に見守られ、記念品を受け取る荻野トヨさん

スポーツ 宝くじ助成で軽可搬ポンプなどを購入

初期消火活動に活躍が期待される軽可搬ポンプ



市は、(財)日本消防協会が行う「女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業(宝くじ助成)」の助成を受けて軽可搬ポンプのほか、防火防災ビデオ・デジタルカメラなどを整備しました。

この事業は、婦人消防協力隊などの育成強化を目的としたもので、これらの資機材整備により防災活動の一層の推進が期待されます。

◆購入品＝軽可搬ポンプ(2台)、ヘルメット(20個)、角型水槽(2基)、AEDトレーナー(2台)、防火広報ビデオ(3本)、デジタルカメラ(1台)、ビデオカメラ(1台)、防火指導用教材(390部)